

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①学校のミッションや生徒の実態、ニーズに即した魅力と特色づくりを推進する。 ②インクルーシブ教育実践推進校として、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努める。 ③持続可能な社会の造り手として必要な資質・能力を育成するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	①新教育課程の実施に伴い、生徒のニーズ及び選択科目的設定等に関して学校教育目標との整合を検証する。 ②インクルーシブ教育実践推進校として、共生社会の実現を目指して全ての生徒に対してインクルーシブな取組を構築する。 ③I C T機器の利活用を促進するとともに、板書や発問なども活用して生徒の主体的な取組を重視した授業改善を目指す。	①生徒による授業評価の結果や進路結果、選択科目履修者数から生徒のニーズを把握する。 ②全校生徒対象の講演会及び教員対象のインクルーシブ講演会を実施する。 ③研究授業や教員相互の授業観察を推奨し、生徒の主体的な取組を模索できる機会を提供する。	①生徒による授業評価や魅力特色アンケートは、肯定的な意見であったか。 ②講演会のアンケート結果は、肯定的な意見であったか。 講演会の内容は、授業や生徒対応に反映できたか。 ③生徒による授業評価の結果に対する取り組み状況は、適切であったか。 教員相互の授業観察や研究授業を行うことができたか。					
2	生徒指導・支援	①他者を思いやり、尊重できる自立した生徒、自らの夢や目標に向かって果敢にチャレンジできる生徒、心身ともに健やかで、逞しい生徒の育成を図る。 ②規律と秩序のある生徒指導。きめ細かい支援を確立し、一人ひとりが正しい道徳観や社会性を醸成できるような体制を構築する。	①小集団によるリーダーの育成と活用を目指し、委員会活動や部活動の活性化を進める。 ②学校行事には、多様性を重視しながら取り組める仕組みづくりを構築し、インクルージョンの意識向上を図る。 ①交通マナーの向上を目指し、生徒自らが取り組むことができる仕組みを構築する。 ②多様化する生徒に対応するため、教育相談やS C、S S Wさらに外部機関と連携した体制を構築する。	①各委員会では生徒主体の取組を推進し、集団による事業推進と問題解決を図る機会を提供する。 ①各行事では、他学年との交流を図り、多様性を意識できる仕組みを構築する。 ①交通に関する学校（教師・生徒）と保護者、地域が連携できる交流機会を模索する。 ②組織的な教育相談とS C、S S Wとの連携および家庭との連携を図る。	①各委員会では、生徒自ら考えた企画を一つでも行うことができたか。 ①他学年と交流ができる行事を行なうことができたか。 ①3者による交流機会が提供できたか。 ②S C、S S Wさらに外部機関と家庭との連携ができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価（月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりがより良い進路選択ができるような能力の育成、および生徒・保護者等に対して適切な内容と量の情報を受け取れるような機会の充実を図る。	①生徒自らが適切な進路選択を行えるよう総合的な探究の時間の内容をさらに深化させ、自己実現に向けた計画的な取組を推進する。 ②保護者等を対象とした説明会を充実させ、保護者等と連携した進路指導を推進する。 ③資格検定試験の成果を進路選択にいかした指導を構築する。	①生徒自らが適切な進路選択を行えるよう進路先との交流機会を増やし、総合的な探究の時間での進路計画の充実を図る。 ②保護者等を対象とした説明会を増やし、生徒・保護者等の進路計画の理解を深める。 ③デジタルサイネージ等を活用し、資格検定試験の広報を充実させ、生徒のチャレンジ意識を向上させ、自己肯定感を高める。	①前年度と比較して、進路先の説明会や交流会の機会を増やすことができたか。 ②保護者等を対象とした説明会を開催し、生徒と保護者等をつなげられる機会を提供できたか。 ③デジタルサイネージ等を活用した広報を行うことができたか。					
4	地域等との協働	①地域との交流や協働、地域貢献等を通じて、地域と共にあら学校づくりに取り組む。 ②在校生や保護者等地域社会に対して、本校の教育活動についての理解を深めもらうための情報発信を行う。	①霧コンシェルジュやボランティア生徒を活用し、地域との交流・連携事業で生徒による広報活動の推進を図る。 ②デジタルサイネージを活用して生徒に本校の魅力を校内発信し、生徒自らが霧高の魅力を発信できる仕組みを構築する。 ③ホームページの迅速な更新により、保護者や地域の方々からの情報伝達を図る。	①全公立展や学校説明会等、校外での広報機会では、霧コンシェルジュやボランティア生徒を活用し、生徒による広報活動の機会提供と新たな広報グッズの作成により霧コンシェルジュ等の登録者数増加を目指す。 ②デジタルサイネージでは、情報発信とともに部活動結果や行事の様子などを発信し、霧高の魅力を生徒に伝える。 ③学校行事や部活動等、霧高の魅力的な部分はホームページに掲載し、迅速な更新により魅力的なホームページによる閲覧数の増加を図る。	①全公立展や学校説明会では、霧コンシェルジュやボランティア生徒を活用できたか。また、新たなグッズを作成し、登録者増に向けて周知できたか。 ②デジタルサイネージで霧高の魅力を発信することができたか。 ③ホームページでは、学校行事や部活動等の発信ができたか。また、新たな霧高の魅力発信ができたか。					
5	学校管理 学校運営	①保護者・地域から信頼され、生徒が安心して学べる安全で快適な学校づくりを行う。 ②自他の命を尊び、大きな災害にも対応できる高い防災意識を育む。 ③不祥事や事故を未然に防止する職場環境づくりを行う。	①生徒と教師間の人間関係を構築するため、学校運営協議会を活用してインクルージョンな学校環境を整備する。 ①体育館の耐震工事に伴い、行事等が円滑に進めることができるように安全配慮に努める。 ②防災訓練により自他の命（いのち）を尊重する意識と、迅速な行動ができる体制を構築する。 ③不祥事・事故防止に向け、働きやすい職場環境を整備する。	①学校運営協議会ではインクルーシブな環境整備に係る内容を協議する。 ①学校行事等では、関係グループと連携し、施設利用の柔軟な対応を検討する。 ②防災訓練後には、生徒から意見を収集し、訓練においての意識を把握する。 ③職場環境の整備に関して職員からの意見を収集し、その反映を検討する。	①学校運営協議会では、インクルーシブな環境整備に係る意見集約ができたか。 ①学校行事等で関係するグループとの連携が図れたか。 ②防災訓練後に生徒からの意見集約ができたか。 ③職場環境の整備に関して職員からの意見を集約できたか。					